JASE
# 現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2022年
No. 130
2022年1月15日（毎月15日）発行

日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2022 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第21回JFS性科学セミナー報告 …… 1
いつきの“ヒューマン・ビーイング”⑩ …… 7
性教育の現場を訪ねて㊾ …… 8
多様な性のゆくえ㊼ …… 10
今月のブックガイド …… 11
JASEインフォメーション …… 12

## ◆第21回JFS性科学セミナー報告

# ポスト・コロナ・セクシュアリティ

**2021年10月23日（土曜日）「ポスト・コロナ・セクシュアリティ」をテーマに第21回JFS性科学セミナーが開催された。新型コロナウィルス感染症予防のため、2020年は中止になり、２年ぶりにオンライン（Zoom）で開催された。主催の日本性科学連合（JFS）を構成する６団体のうち５団体の代表５名が、それぞれの専門分野から講演を行った。**

開会にあたり、日本性科学連合（JFS）の大川玲子会長が、オンラインで日本性科学連合の成り立ちと構成団体の紹介、歴史、さらに今回のJFSセミナーのテーマ選定の経緯を紹介された。続いて、前半を高波真佐治氏（介護老人保健施設ユーカリ優都苑施設長）、後半を渡會睦子氏（東京医療保健大学医療保健学部看護学科教授）両座長のもとで、５名の講師がそれぞれ35分の講演を行った。参加者は約70名だった。

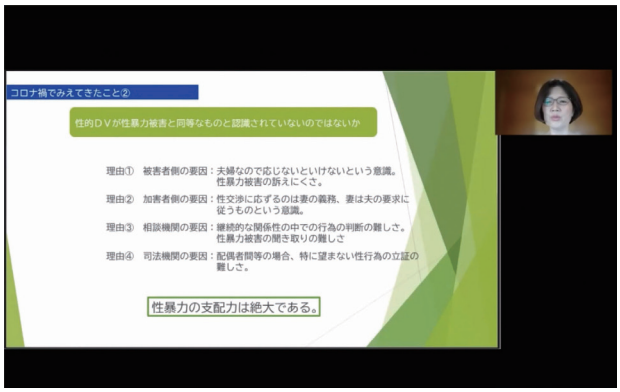
大川玲子ＪＦＳ会長
（Zoomより）

以下、前半（13時10分～）２名、後半（14時45分～）３名、計５名の専門分野からの講演概要（Zoomによるオンライン講演）を紹介する。

### コロナ禍でみえてきたDV相談における性暴力被害の課題

13時10分より日本思春期学会（JSA）を代表して保健師・看護師として長く性暴力被害者支援に携わってきたsaveぐんまの青木知子氏は、「コロナ禍でみえてきたDV相談における性暴力被害の課題」をテーマに報告された。

青木氏は、最初に内閣府男女共同参画局の2019年度と2020年度のＤＶ相談件数の推移を紹介、コロナ禍の中でのＤＶ増加の実態を数字で示された。その後、ＤＶには、「身体的ＤＶ（身体的暴力）」、「精神的ＤＶ（心理的攻撃）」、「経済的ＤＶ（経済的圧迫）」、「性的ＤＶ」の４つの形態があり、その具体的な内容を詳説された。




2020年度のＤＶ相談の主訴（一番困っていること）の調査では、精神的ＤＶが24.8％で最も多く、性的ＤＶは最も少なく1.5％であったという。また、同調査の主訴の複数選択では性的ＤＶでも6.4％であった。

しかし、青木氏は、この調査の値は実際のＤＶ相談の実態と異なっているという。実際のＤＶ相談では、「身体的ＤＶ（身体的暴力）」、「精神的ＤＶ（心理的攻撃）」や「経済的ＤＶ（経済的圧迫）」に性的ＤＶが伴っている場合が多いという。

青木氏は、「性的ＤＶ」と「性暴力」の定義を解説し、当事者と相談を受ける側の間に性的ＤＶに対する認識の違いが存在しているために、数字として表れない場合があり、「ＤＶ相談の中で、申告されていない性的ＤＶが多く存在する」という。性暴力は被害が甚大で、外傷的出来事別PTSD発症頻度は、さまざまな外傷的出来事の中で最も頻度が高く、女性で45.9％というデータがある。

青木氏は、相談現場での事例を紹介しながら、その実態を報告。コロナ禍で在宅時間の増加などの影響で、ＤＶ被害の増加、ＤＶ相談の増加が顕著であるという。報告の最後に、ポストコロナに必要なこととして、以下の提言をされた。

◆幼少期からの教育
・セクシュアルリプロダクティブ・ヘルス／ライツの教育
・関係性の教育
◆一般社会の意識の変革
・どのような関係性であっても望まない性的な行為は性暴力であるという意識づけ
◆相談機関の意識の変革や関係機関連携
・ＤＶの多くは性的ＤＶがある、と考えて対応する
・性的ＤＶは性暴力であるという認識をもつ
・性的ＤＶ（性暴力）は、身体的ＤＶと同等以上に甚大な影響を与えるという認識をもつ
・関係機関と連携し早期に適切なケアを提供する

## 『#つながるブック』制作の経緯と活用について

青木氏に続いて、13時45分より日本家族計画協会（JFPA）を代表して、埼玉医科大学医療人育成支援センター地域医学推進センター／産婦人科助教の髙橋幸子氏が「『#つながるブック』制作の経緯と活用について」をテーマに講演を行った。髙橋氏は、自己紹介で「趣味性教育、特技性教育、仕事性教育の産婦人科医です」と語り、講演を始められた。

『#つながるBOOK』は、高校生を対象に作成された性教育教材である。

髙橋氏は、その内容を以下の様に解説している。

「学習指導要領に則れば、中学生には避妊を教えることはできません。しかし、妊娠したかもしれないという不安にこたえるためには、性行為について、避妊についての話題に触れないわけにはいきませんから、ターゲットを高校生と設定しました。

一般的に性教育のパンフレットと言えば、性行為をする前提で、避妊や性感染症の話からスタートします。『#つながるBOOK』では、24ページしかないのに、10ページまで行ってもまだ性行為に至っていません。世界の性教育のスタンダードは性的同意や性の多様性などの人権教育です。恋愛ってしなきゃいけないの？というピアプレッシャーからも解き放つ、一人ひとり自分のペースでよいという内容になっています。

妊娠したかもしれないという不安に対して必要な情報を盛り込みました。月経周期、緊急避妊、妊娠反応検査薬、中絶を選択できる時期、出産するという選択、自分で育てる以外の選択肢や、学校をやめる必要はないということまでを伝えたい、と盛り込みました。一番の特徴は、産婦人科医会の科学研究費によって作成したにも関わらず性感染症についてたったの1ページ、ということかもしれません。

インターネット上の情報は玉石混交です。『#つながるBOOK』では、信頼できるインターネット上の情報だけにつながるように、精選しています」と。

『#つながるBOOK』という名前には、意識の高い系の高校生だけでなく、一般の性教育には無関心な層

WEB 版 https://www.jfpa.or.jp/tsunagarubook/
PDF 版 https://www.jfpa.or.jp/tsunagarubook/tsunagarubook.pdf
※WEB 版の一番下に、申し込み用フォームが記載されている

にも届けたいという想いで制作されたのだという。

髙橋氏は、『＃つながる BOOK』制作の経緯について、配付資料に記している（以下要旨）。

〈2020 年３月～５月、学校は一斉に休校になりました。卒業式や入学式がなくなったり、いろいろな影響がありましたが、ニュースでは妊娠したかもしれないという若者の不安による電話相談や LINE 相談が増えたと報道され、十代の妊娠や中絶が増えるのではないかと心配されました。2021 年４月の妊娠 SOS ピッコラーレの報告では、妊娠不安相談の５％が、性行為の経験がなかったと言います。そもそも知識が不足しているのです。

2020 年３月、私ひとりだけでも 20 件の性教育講演会が中止になりました。全国では一体何人の生徒さんが、受けられたはずの性教育を受けられなかったのでしょうか。

そこで、新型コロナウイルス感染症流行下の自粛の影響――予期せぬ妊娠等に関する実態調査と女性の健康に対する適切な支援提供体制構築のための研究（令和２年度厚生労働行政推進調査事業費補助金厚生労働科学特別研究事業）の一環として『＃つながる BOOK』が作成されました。〉。

二人の講演後、15 分ほど質疑応答が行われ、休憩を挟んで、座長の東京医療保健大学医療保健学看護学科教授の渡會睦子氏の進行で、三人目の講演が始まった。

## ポストコロナのセクシュアリティ・文献調査から

14 時 45 分から日本性科学会（JSSS）を代表して、日本性科学会副理事長の早乙女智子氏が「ポストコロナのセクシュアリティ・文献調査から」をテーマに講演を行った。

早乙女氏は、産婦人科医・セックスセラピストで、一般社団法人性と健康を考える女性専門家の会代表理事、性の健康世界学会（WAS）理事、日本性教育協会運営委員などを務めている。

早乙女氏は、講演の冒頭、「ワクチンが開発され、

治療薬も進歩している現在、当初の恐怖からはやや落ち着いた感はあるが、未だ終焉したとはいえない。性感染症に対するコンドームの使用も重要だが、呼気に含まれているかもしれない目に見えないウイルスに対して講じる非接触は COVID-19 感染予防に重要で、挿入を伴う性行為とディープキスのどちらがより健康リスクかというかつてない課題も生まれた。個人の時代とも言われる 21 世紀に、人との親密さをどうやって図るか、どうやって保つかが問われている」と語り、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）によって、性はどのように変わったのかについて、４分野の文献調査からの報告を行った。

以下、講演の要旨を分野別に紹介する。

①人との物理的心理的距離（Social Distance）

海外では、ロックダウンが精神面、関係性、性の健康に劇的な影響を与えた。女性への暴力、LGBT など、助けを求めにくい人がより求めにくくなっている。ワクチンパスポートなどをめぐって新たな差別が生まれるなど、新たな人間関係軸が発生している。

②性行動・性心理の変化

生殖と快楽の乖離が報告されている。性交回数の減少が見られる。

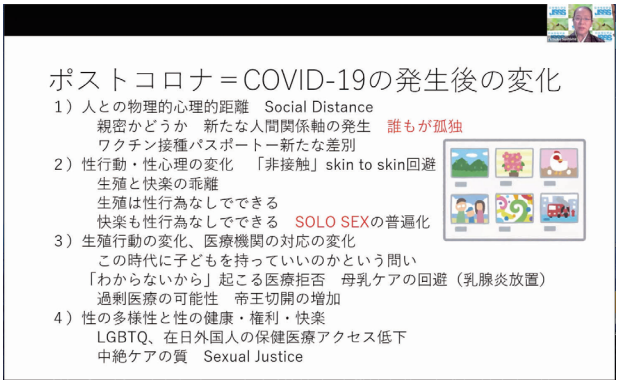
③生殖行動の変化、医療機関の変化の対応

この時代に子どもを持っていいのかという新たな声が聞かれた。「わからないから」という理由で起こる医療拒否、母乳ケアの回避、過剰医療、帝王切開の増加、医療従事者の過労労働、など様々な変化が報告されている。

④性の多様性と性の健康・権利・快楽

米国では LGBTQ の保険診療アクセスが悪くなった。パンデミック下での推奨される性の健康に関する文献の報告など。

早乙女氏は、次のように講演を締め括られた。




「先が見えない COVID-19 感染症は恋愛も出産行動も抑制し、人類を滅ぼすのだろうか。社会や政治が性の健康や権利、快楽などの個人の人生の選択肢を担保し、個人は性的存在としての人生をどのように生きるのか自分で選択する、その覚悟を問われているように思えてならない」と。

## 梅毒等の性感染症の現状

４人目の講演者は、日本性感染症学会（JSSTI）の東京大学医科学研究所附属先端医療研究センター教授の四柳宏氏、テーマは「梅毒等の性感染症の現状」。四柳氏は、感染症内科学（主としてウイルス性疾患）を専門としており、現在、東京大学医科学研究所附属病院病院長を務めている。四柳氏の病院では、HIV 感染者の治療、COVID-19 感染者の治療なども行っているという。

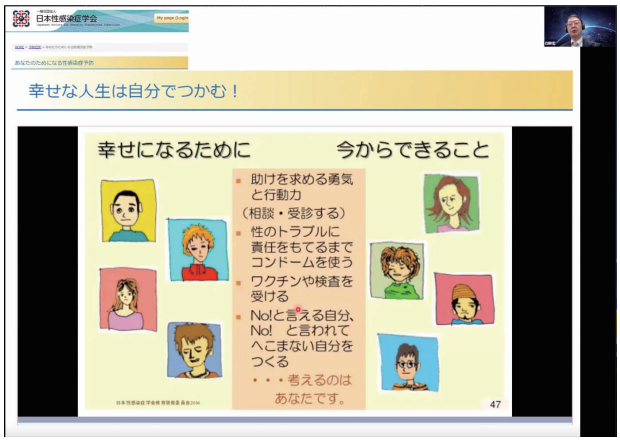
講演は、「もしかして梅毒⁉」と「梅毒流行っています」と題した短い２本の動画から始まった。東京都が作成したこれらの動画は、梅毒という感染症とその予防法などを分かりやすく解説している。

四柳氏は、動画終了後、梅毒の年齢階級別・性別報告数のグラフを示して解説された。その内容を配付資料で次のように要約している。

〈性感染症には５類の全数届け出疾患である梅毒、５類の性感染症定点医療機関からの届け出にしている性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の５種類が主なものである。中でも全数届け出疾患である梅毒は症状・推定感染経路が発生届に記載されており、他の感染症に比べて詳細な解析が可能である。

梅毒の報告数は平成 24 年までは 1000 人未満であったがその後次第に報告数が増え、令和元年には 7 000 人近い報告がなされている。センチネルサーベーランスのデータも併せて考えると年間 10000 例近くに達している。男性では 20 歳代から 40 歳代の、女性では 20 歳代の増加が顕著である。コロナ下でも発生者数にはまったく変わりはなく、性感染症のコントロールの難しいことを示している。

梅毒感染者数増加の原因についてはいくつかの研究班で調査が進んでいる。男性では、性風俗産業の利用者・若年層を中心とした性的活動性の高い集団が感染




者として多い。また、女性では性風俗産業従事者を中心とした高リスク（学生を含む）が多い。これらの集団から性産業を利用しない人への感染が広がっていることがわかってきた。〉

四柳氏は、2019 年、2021 年の梅毒報告数の推移をグラフで示し、「梅毒の報告者数はコロナ禍により確実に増加している」ことを報告した。また、梅毒だけでなく性器クラミジア感染症が若年層で増加していること、20 歳代の男女でそれが顕著であることを強調した。

こうした層に対する Safer Sex の啓発、オーラルセックスでも梅毒などの性感染症が広がることの周知が必要であると述べ、中高校生などに正しい知識を伝える方法として、ピアカウンセリングが有効であると講演を締め括られた。

## 性の健康と格差
## ――HIV とコロナからの学び

15 時 55 分から、最後の講演者として日本性教育協会（JASE）を代表して、認定 NPO 法人ぷれいす東京理事の池上千壽子氏が、「性の健康と格差――HIV とコロナからの学び」をテーマに講演された。

池上氏は、HIV ／エイズパンデミックが起こった当時、ハワイ大学性と社会太平洋研究所でミルトン・ダイヤモンド教授のもとで学び、帰国後の 1994 年に HIV 陽性者のケアと予防啓発活動を行う NGO ぷれいす東京（当時）を設立し 2012 年まで代表を務めた。現在は、認定 NPO 法人ぷれいす東京理事、日本性教育協会の運営委員会の副委員長などを務めている。

講演の冒頭で、UNAIDS（国連合同エイズ計画）の初代事務局長で、エボラ出血熱とエイズの研究で知られる微生物学者ピーター・ピオットの「地球はウイルスの惑星」であるという言葉を引用し、「そもそも人類は微生物やウイルスとともにあり、人と社会はパンデミックから学び、経験を蓄積し知恵となし、あらたな感染症との共生につなげていかなけらばならないと」と述べ講演を始めた。

池上氏は、20 世紀以降のパンデミックと死者数、1910 年代「スペイン風邪（死者数 5000 万人）」、1981 年～「HIV ／エイズ（死者数 3800 万人）」、2019 年～「COVID-19（死者数 380 万～）」を示し、感染症が起こる仕組みと感染症の感染源と感染経路などに対する取り組みの歴史を解説、感染症は社会を映しだす鏡であると述べ、感染症に対する対応について次のように語った。

「人から人への新たな感染症では、判明した感染源と経路をだれもが理解し、感染を予防し、感染した人をケアし、治療することが求められる。たとえ治癒は困難でも、ケアと可能な治療は必須である。新たな感染症に対しどのような情報が提供され、どのような予防とケアの対策がとられたか。それは機能しているか。機能不全ならその要因はなにか。有効な対策を阻害している要因はなにか。排除されている人やグループはいないか、感染症パンデミックはこれらをあぶりだしてくれる」と、エイズパンデミックの具体的な例をあげて、解説された。

「ウイルスとの戦争だ」とか「野戦病院を」といった脅しは、短期的には有効だが長期的には有害だと強調する。ウイルスが敵なら感染者も敵になってしまう、それは差別や人権侵害につながることへの理解が大切であるという。

池上氏は、HIV ／エイズが教えてくれた 5 つの視点をあげ、ウイルスへの正しい対応を提言された。

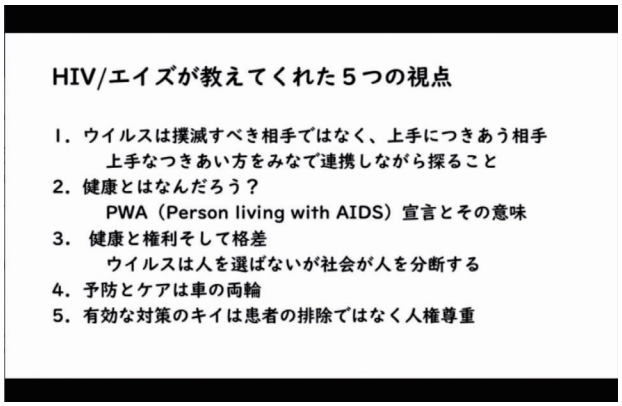
以下、池上氏の提言を要約して紹介する。

視点 1 ：ウイルスは撲滅の対象ではない。

ウイルスは撲滅すべき相手ではなく、上手につきあう相手である。上手なつきあい方をみなで連携しながら探ることが必要で、ゼロ（撲滅）を目指すのはほとんど不可能であるだけでなく、感染症対策として有効ではない。むしろひどい人災を引き起こしかねない。

視点 2 ：健康とはなにか、どのような状態かを理解すること。

1982 年代、エイズ患者たちが感染経路で分断され




数値でしか示されないことに抗議、自分たちは「エイズとともに生きている人間だ」と主張､PWA（Person Living with AIDS）という表現が定着したという。健康とは単に疾病のない状態ではない。生きている人は、だれでもなんらかの疾病や障害をかかえている。だれもがPerson Living with ○○（さまざまな病気など）といえる。○○は増えたり減ったりする。○○には優劣や善悪は本来ない、しかし、人間が勝手に価値判断を加え差別偏見につなげる。

視点３：健康と権利と格差

個人の基本的人権が保障されなければ健康は得られず維持できない。健康格差の是正は人権と倫理の課題である。

視点４：予防とケアは車の両輪である。

ケアがみえないと予防の意志も努力もそがれてしまう。HIV感染の場合では、性への偏見や性をオープンに語れないことが予防のブレーキとなり、差別は感染症を広げる温床となった。

視点５：有効な対策のキイは患者の排除ではなく人権尊重である

だれもが存在として平等、等しく尊重される基本的人権をもつという認識が基本である。健康は個人の健康管理だけですむ課題ではなく、個人が健康であるためには、その個人が社会のなかで平等かつ公正に尊重されなければならない。

池上氏は、講演を健康と権利は不可分のものであり、誰もが安心して病気を発見して、病気とつきあえる社会でなければならない、そうなればHIVもコロナも「禍」ではなくなる、と語り講演を終えた。

16時30分より、後半講演について25分間の質疑応答が行われ、オンラインで開催された第21回の性科学セミナーは終了した。

大川会長は冒頭の挨拶で、オンラインのよさは地理的に離れていても参加できるところにあると語った。ポスト・コロナでは参加できる人は会場に、会場に足を運べない人はオンラインで参加が理想ではないかと感じたセミナーであった。

なお、次回の第22回JFS性科学セミナーは、2022年８月27日（土曜日）に、神奈川県鎌倉市で開催される予定である。


## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

**資料室について**

JASE資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

**資料室利用方法**

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】しばらくの間、月～金曜日 11：30～16：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

**収集文献・資料**

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

# いつきの“ヒューマン・ビーイング”
## 人権について考える ⑩

**土肥いつき**
京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

### 最初に伝えたいこと

前号まで、人権教育とわたしのかかわりについて書いてきました。今号からは、そういうわたしが、勤務校における人権学習でどのようなテーマを取りあげているのか、そのテーマを選んだのはなぜなのか、そのテーマからわたし自身が何を学んだかということを書いていこうと思います。

最初に、わたしが人権学習をおこなうにあたって留意していることを確認しておきます。人権学習ではさまざまなテーマを扱います。しかし、それらのテーマ「を」伝えるのではなく、それらのテーマ「で」伝えたいと考えています。なぜなら、そのような伝え方をすることで、個々のテーマには違いがあるだけでなく、共通することがあることに気づくことができると考えているからです。また、そのような伝え方をすることを通して、子どもたちが自分の課題と向き合うこと、そしてその課題を社会化することができると考えるからです。その時に大切なことは、課題に軽重をつけないということです。言い換えるなら「語れるしんどさ／語れないしんどさ」はないということを伝えたいと考えています。そしてできればそれを共有してほしいと考えています。それは、しんどさを語る時、刃をふるう必要はないということを意味します。そうやって、人権をきっかけとした子どもたち同士のつながりができてくれたらうれしいと思っています。

１年生１学期におこなう人権学習は、これから３年間の導入として、とても大切です。かつては「身近にある差別」として、社会の中にある迷信や偏見をとりあげた時期もありました。あるいは、「ちがいのちがい」などの参加体験型の学習にとりくんだこともあります。しかし、ここ数年は「世界人権宣言」と「多様性ワークショップ」の学習をしています。今号と次号で、「世界人権宣言」について書くことにします。

わたしの勤務校では、新入生に対して入学式の翌日・翌々日に、高校生活についてのオリエンテーションがあり、世界人権宣言の授業はその中の一コマという位置づけでおこなっています。

世界人権宣言については、当然のことながら生徒たちは小中学校ですでに学習しています。しかし、伝え方を変えながら繰り返し伝えればいいと考え、３年間の人権学習の最初にこの授業を設定しています。

授業では最初に「人権はいくつある？」という質問から入ります。答は「30 個」です。これは、世界人権宣言の条文の数です。そして、ストリートチルドレンを例にあげながら、その条文のどれが保障されていないかを確認します。さらに、ホームレスを例として、日本国内においても人権が保障されていない人がいることも示します。このようにして、世界人権宣言という「権利のリスト」を用いることで、自分の人権のどれが保障されていないかを確認できるということを、まず伝えます。

次に、世界人権宣言ができるまでの歴史のビデオを用いて、人権はあたりまえのこととして存在するのではなく、人類の歴史のなかで勝ちとってきたということを伝えます。さらに、世界人権宣言を実効化させるために、さまざまな国際条約がつくられ締結されてきたことを伝えます。また、こうした国際条約は、それぞれの当事者が声をあげることでつくられてきたこともまた伝えます。ただし、世界人権宣言ができたのは 1948 年です。当時は人権と考えられてこなかったことも、後に人権課題であると認識されるようになります。その例として「ジョグジャカルタ原則」をとりあげ、LGBT のことにも少し触れます。

最後に、世界人権宣言採択当時の国連人権委員会委員長だったエレノア・ルーズベルトの言葉「普遍的な人権とは、どこからはじまるのでしょう。実は、家の周囲など、小さな場所からなのです」をひき、「小さな場所」で人権を具体化するためのキーワードとして、わたしが考えたふたつの言葉を提示します。それは「助けて！」と「あかんのちゃうん！」です。なぜこのふたつの言葉をキーワードと考えたのか、そしてこのふたつの言葉にどんな思いを込めたのかということについては、次号に書くことにします。

# 性教育の現場を訪ねて㊾

## ［北海道室蘭市立星蘭中学校］（上）

# 全学年で取り組む「生と性を考える授業」

室蘭市は、北海道の南西部・胆振地方に位置し、製鉄業で栄えた工業都市であり、太平洋側には、地球岬に代表される風光明媚な景勝地が連なっている。その室蘭市母恋地区にある星蘭中学校では、道徳の授業の一環として全学年が性に関する授業を学んでいるという。今回は星蘭中学校に伺ってお話を伺った。

### いのちについて考える

２学期のはじめ、１年生46人を対象とした「性の講話会」が実施された。講師である助産師の松坂愛さんは「赤ちゃんはいろいろな力をもって生まれてくる」「生まれるタイミングもわかっているし、生まれてすぐに呼吸を始める」「赤ちゃんってすごいんだよ」と生徒たちに語りかける。

星蘭中学校では、毎年道徳の授業の一環として全校生徒を対象に「生と性を考える授業」を実践している。

１年生のテーマは「いのちについて考える」。星蘭中学校の性に関する指導の中心的な役割を担う米森敏恵養護教諭は、松坂さんの講話について、

「助産師さんだからこそ日々感じる『いのちの大切さ』を、毎年１年生に話してくださいます。生まれてすぐに亡くなるいのちもある。生まれてきてくれてありがとう、ここまで生きてきてくれてありがとうと。

臨場感あふれるお話は、私たち教員ではなかなか難しい。松坂さんの講話に、生徒たちはいつの間にか引き込まれているようです」と語る。

講話のあとにはグループワークを行う。

「みなさんは、『いのち』と聞いて何を思い浮かべますか？」――そんな松坂さんの問いかけに、生徒たちは自分なりに「いのち」について考えていく。

「すべてのはじまり」「ひとつだけ」「一人一つあって大切なもの」「いつか消える」……生徒の数だけ答えがある。

そしてその後は、グループごとに共同作業で「いのちに対するイメージ」を制作していく。

室蘭市立星蘭中学校
学校長　　笹森 恭之
全校生徒数　126名
教職員数　　23名
（2021年４月現在）

助産師による授業の様子

### 自由に楽しみながら学ぶ

今年はタブレットを使った授業を行った。グループワークでは、ジャムボードというクラウド上で使えるホワイトボードを使ってみんなで一つのものをつくり上げていった。新型コロナウイスが流行する前は、大きな模造紙を使ってグループワークを行っていた。

「床に広げた模造紙に絵でも言葉でもいいから、自分たちの好きなように描いていってほしいと伝えて、いのちに対するイメージを自由につくりあげてもらいます」

「僕はこっちを書くから、君はそっちを書いて」「絵は私に任せて」「ここはクレヨンで、思い切ってドーンと描いてみてはどうかな？」。生徒たちは実に和気あ

2021年度は密を避けるためにタブレットを使って行った

いあいとワークに取り組むという。

「みんなで一つのものを作り上げていく楽しさがあるんですね。正解はありませんから、心に思い浮かぶままに自由に作り上げることも、生徒たちにとってはうれしいワークなのかもしれません。

５時間目と６時間目を使うので、途中休み時間が入りますが、生徒たちは、ああでもない、こうでもないと休み時間もそっちのけで、共同制作に没頭しています」と米森養護教諭。

「しかし、今年は新型コロナウイルス感染防止の観点から、額を寄せ合って行う共同作業ができませんでした」と残念そうに語る。

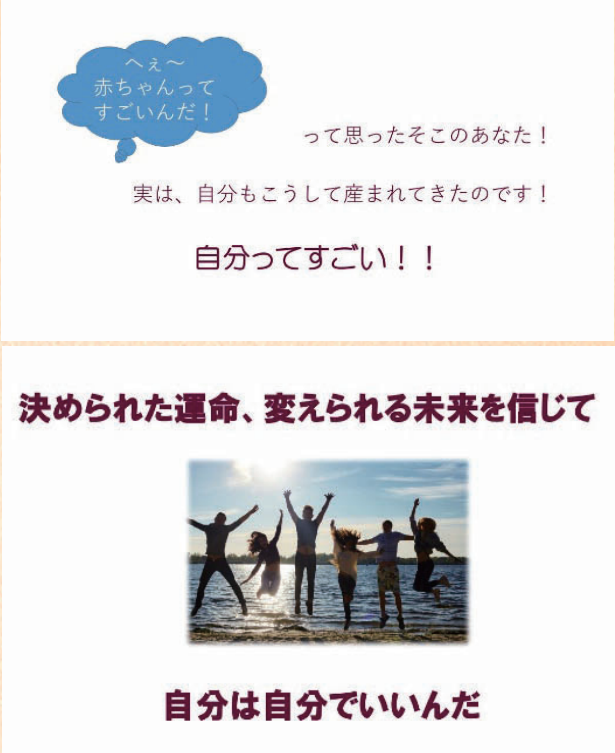
## 助産師さんと一緒に授業を組み立てる

全学年で取り組む「生と性を考える授業」は、今年で10年目を迎えるという。

米森養護教諭は「毎年新しい情報を加えて、内容を少し変えることはありますが、基本的に１年生は『いのちについて』、２年生は「性に関する諸問題」、３年生は『性感染症等の正しい知識を持つ大切さと助けを求める勇気』というテーマは変わりません」と語る。

性教育には前任校から取り組んでいるという米森養護教諭。「１年生と３年生、そして２年生に講話をしてくださる２人の助産師さんは前任校からのお付き合いです。一緒に性教育に取りくんで、もう15年くらいになります。お互いに気心が知れているから、自由に意見を交わせる。またこちらの意図も十分に汲んで、講話に反映してくれます。いっしょに学びを組み立てていくことが毎年楽しみです」。

１年生の「いのちについて考える」授業では、講話の中で中島みゆきの「誕生」という曲を聞かせたり、グループワークをしたり、またワークの成果を講師が



１年生「いのちについて考える」講話資料より

紹介したりと、随所に生徒たちを飽きさせない工夫が凝らされている。

授業後は生徒たちから以下のような感想が寄せられた。

- あまり生活の中ではいのちについて考えたり話し合ったりする機会がなかったので、みんなで考えたり話し合ったりできる貴重な体験でした。印象に残ったのは、日野原重明先生のいのちのおはなしという絵本の中の言葉として紹介してくれた「いのちとはこれからあなたたちが生きていく時間のことです」が心に響きました。(男)
- いのちとは何かを考えたときにいろいろな意見があったけれど、途中で出てきた名言のようなものがいちばん心に残りました。そして、歌の歌詞もすごくグッときて、本当に励ましになるような感じですごくよかった。(女)
- 自分のいのちは１つしかないと思った。いのちは尊くはかないことを知った。いのちは簡単に亡くなってしまうことを知った。

１年生にとっての「生と性を考える授業」は、いのちというものを考え直す深い学びにつながったようだ。

次号では、２年生と３年生の授業を紹介する。

（取材・文　エム・シー・プレス　中出三重）

多様な性のゆくえ

One side／No side［57］

宮田 一雄

みやた　かずお

ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

# トランスマーチを歩く

一緒に歩きませんか。Facebook で拡散されたチラシにはこう書かれていた。少し控え目な印象が伝わってくるのは、こちらに先入観があるせいだろうか。

国内で初となるトランスマーチが昨年 11 月 20 日に開かれた（欄外下・実行委員会の公式サイト参照）。

『トランスマーチはトランスジェンダーの人権・プライドを訴えるために世界中で行われているパレードです』『世界中で毎年数百人のトランスジェンダーが殺され、日本においてもその人権否定の言説により自ら命を奪ってしまう人達が後を絶ちません』

11 月 20 日は『国際トランスジェンダー追悼の日』だという。

『トランスジェンダー当事者はもちろん、私たちの人権のために共にあろうとしてくれる人も、ぜひ一緒に新宿の街を歩いてみませんか？』

その資格が私にあるのかどうか。自信はなかったし風も少し強かったけれど、晴天に恵まれた土曜日の午後、集合場所の新宿中央公園（東京都庁の隣にある公園）を訪れる。出発前のあいさつで、実行委員会共同代表の一人、浅沼智也さんはこう語った。

「今日まで生き延びてもらって、本当にありがとう。一緒に歩きましょう」

トランスジェンダーは出生時の性と異なるに性を自認する人たちのことだ。過去を振り返れば私も「その人権否定の言説」を深い考えもなしに振りまいていることは疑いようもない。「一緒に」という呼びかけに込められた意味やパレードに託す主催者の思いが、苦い反省を伴って伝わってくる。

コースは新宿中央公園から靖国通りに出て、JR 新宿駅脇のガードを潜り抜け、新宿二丁目の新宿公園に到る約 1.7 キロ。50 人くらいではという主催者側の予想を大きく超え、一緒に歩いた人は 400 人に達した。

「私たちは犯罪者ではありません。私たちは皆さんと同じ人間です。私たちはいま現在も一緒に生きています」

先導車のスピーカーからはそんなメッセージが流れる。しかし、行進自体はしずしずと比較的、静かな雰囲気を保ちながら進んでいく。花園神社の脇では、お酉様の熊手を持った人もその隊列を見守った。

パレードの後で「トランスジェンダー追悼の日」について調べた。付け焼刃の知識で恐縮だが、追悼の日は 1999 年、米国で創設されている。その前年の 1998 年 11 月 28 日、トランスジェンダー女性のリタ・ヘスターさんがボストンの自宅で殺された。少し前にワイオミング州でゲイ男性が殺害される事件があり、ヘイトクライムとして社会的論争をまき起こしていた時期だったが、ヘスターさんの事件にはマスメディアも関心を示さず、未解決のまま忘れられようとしていた。

このためサンフランシスコのトランスジェンダー活動家が「失われた人たちを記憶し、正義のために闘い続けなければならない」として翌年 11 月 20 日にロウソクを灯し、追悼行事を行ったのが始まりだった。ここからは想像だが、小さな動きが少しずつ広がって国際的な記念日となったのではないか。新宿のパレードと同じ日、米国ではバイデン大統領が「トランスジェンダー追悼の日」によせた声明を発表し『今年（2021 年）に入り国内では、少なくとも 46 人のトランスジェンダーの人たちが、おぞましい暴力の被害を受け、殺された』と述べている。米国内で最悪の記録だという。

『LGBTQI+ の人たちの公民権確保は大きく進展しているのに、それでもなお、あまりにも多くのトランスジェンダーの人たちが恐怖の中で生き、自由と平等を妨げる構造的な障壁に直面しています』

大統領はこうした現状を認めたうえで『今日は追悼の日です。明日からは行動しなければなりません』と語り、いくつかの具体的な行動を政権内に指示するとともに、各州政府や州議会にも協力を求めた。

日本ではトランスジェンダーの人たちが一歩を踏み出した。次のステップは政治の意思を示すことであり、これは実は政権内に的確な助言者を処遇できれば、それほど難しいことではないようにも思える。

https://to3824.wixsite.com/transmarch

# BOOK GUIDE
## 今月のブックガイド

**オカマの日本史**

山口志穂著
ビジネス社
定価 1760 円（税込）

### 興味深い歴史研究

『オカマの日本史』とは実に挑戦的なタイトルである。「オカマ」という言葉は昨今、差別語ということで使用するのがはばかられる。にもかかわらず、自身「オカマ」を自称する著者は、あえてその言葉にこだわっている。

それは、例えば「LGBT」「同性愛」といった欧米諸国に由来する言葉を用いると、この国にかつてあった性愛文化を語るにはこぼれ落ちるものが少なくなく、また、特定の社会運動のイデオロギーによってバイアスがかかった言葉の安易な転用に関して、著者は批判的な立場を取っているからだろう。

著者の山口志穂氏は長年、在野で研鑽を積んできた歴史研究者。その該博な知識と、一次資料を丹念に渉猟する学究によって、日本史に「オカマの視点」、換言すると、この国独自の性愛文化による視角を与えようとしている。本デビュー作は、その野心的な構想を通史的に予告したもの、と位置づけるのが妥当かもしれない。それこそ一章一章が大きな論文に匹敵する濃い内容となっている。

そして、その「あらすじ」の面白さときたら！　まずは定石通り、「同性愛」や「性別越境」の起源を古事記や日本書紀に探り、天照大神の男装や、ヤマトタケルの女装や男色についての神話が紹介される。そして「男色」を意味するところの「阿豆那比の罪」について、著者は、神功皇后の逸話から分析してみせる。

三韓征伐からの帰路で立ち寄った小竹宮では昼なのに夜が何日も続いていたため、神功皇后はその理由を尋ねた。すると、地元の古老がこう語った。その地にはえらく仲が良かった神職の男二人がいて、彼らの死後にその遺言に従って合葬をしたところ、そうした天変地異が起こった。そして、このあとで二人の墓を別々に分けると、昼夜は元に戻った。

この古事について男色研究の嚆矢、岩田準一は、キリスト教の聖書にあるソドムの贖罪と同じ「神の忌を受けた男色の罪」だと解釈をした。この国の古層にも、一神教に似た宗教的禁忌があったと考えたのである。

が、本書で山口氏はそれに異を唱える。曰く、この神職の男二人は、睦み合っていた生前には神に罰されることがなかった。怒りを買ったのは、遺された神職の男が後追い自殺をしたことなど、神職としての怠慢に理由があったのではないか、と。岩田が一神教的な倫理性に原因を求めたのに対し、山口説は、きわめて人間的な情緒を持つ神の不満（この場合は嫉妬心）に、その原因を見出そうとしている。法や規範を体現する一神教の神と、人間の利害を仮託する八百万の神との性格の違い、といっていいかもしれない。

これは重要な指摘で、現在に至るまで日本社会においてはなぜ、同性同士の性愛の取り扱いが一神教の国々のように苛烈さを極めなかったのか、という問いへとつながっている。この国の歴史にも「男色」に対して蔑視などがなかったわけではないが、戦国時代に来日したルイス・フロイスが驚愕したように、彼の母国などと違って男性同士の性行為は来訪者の目にも映るほど露骨に行われていた。それは、近代以前の日本にはやはりキリスト教圏などとは異なる宗教性、エートスが基底にあったのではないか、という視座である。

山口氏はそうした社会の古層の違いを前提として日本社会の性を考えようとしている。輸入された近代を生きざるをえない私たち日本人は、どのように「いわゆる LGBT」などの生き難さの問題を考え、解消していけばよいのか。その問いは深い。

本書は他にも院政期の男色の政治的機能、後白河法皇を中心にした男色ネットワークに焦点を当てた「保元の乱」論など、白眉といえる分析が多くあり、非常にユニークな歴史研究となっている。まずはご一読を勧めたい。

（作家　伏見憲明）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、Fax03-5800-0478でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

## SEE 性教育アカデミー2021

SEE（Sexuality Education & Empowerment）主催

# みんなで考えよう
# 私たちのSARプログラム

**対面研修**

**定員20名**

**【日　時】2022年2月27日（日）**
**10時から16時30分**
**【場　所】大阪府立大学 I-Site なんば　C-1**
**（大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号）**
**【参加費】5000円（資料代含む）**

SAR（Sexual Attitude Reassessment）とは、性に関する教育や支援に関わる人が、「性に関する自己の価値・態度」と向き合い、再構築するための研修プログラムです。諸外国の代表的な性科学・性教育団体では、SARプログラムを受講を「専門家認定」の条件にしています。研修のスタイルはさまざまで、2日の集中研修もあれば1年かけることもありますが、1）プロセスを重視した、構造化された小グループ体験をする、2）視聴覚刺激を多用する、といった共通点があります。

今回のSEE性教育アカデミーでは、諸外国の代表的な研修内容を紹介し、日本の文化的・社会的文脈に沿ったSAR研修について考えるワークショップを開催します。参加者同士の対話のプロセスを通じて、個人の成長はもちろんのこと、専門的スキルと対人スキルを向上させる（これがSARの目的でもある）機会を提供することになると考えています。

### スケジュール

| | |
|---|---|
| 9：45-10：00 | 受付開始 |
| 10：00-10：05 | 挨拶 |
| 10：05-11：30 | 講義：SARプログラムについて（担当:東） |
| 11：40-12：00 | グループワーク1：SARについて |
| 12：00-13：00 | お昼休憩 |
| 13：00-16：30（適宜休憩） | グループワーク2：日本文化・文脈に沿ったSARプログラムを考える（担当：藤岡・野坂・吉田） |

### お申込み方法（要事前予約）

1）peatixでクレジット払い
https://see-sar.peatix.comをPeatixで検索し、申し込みと支払いを完了してください。

2）口座振り込み
事務局宛（kansaishy@gmail.com）に件名(タイトル)に「2月27日申し込み」、本文に、「1.お名前、2.ご所属、3.連絡先（メールアドレス）」をご記入ください。口座振り込み情報を返信します。

### 講師プロフィール

**藤岡淳子**

大阪大学大学院名誉教授、臨床心理士／公認心理師。児童相談所、児童自立支援施設、刑務所などで、非行や犯罪行動のある少年と成人の教育プログラムの実施およびスーパーバイズを行う。一般社団法人もふもふネット代表理事。

**東　優子**

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授。ハワイ大学大学院で性科学とソーシャルワークを学び、大学（教育福祉学類）では社会福祉士養成課程を担当。GID学会理事。日本性教育協会（JASE)運営委員。

**野坂祐子**

大阪大学大学院人間科学研究科・准教授、臨床心理士／公認心理師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行う。児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバイザー。日本性教育協会（JASE）運営委員。

**吉田博美**

駒澤大学学生相談室・常勤カウンセラー、臨床心理士／公認心理師。性暴力・性的虐待被害者の心理療法が専門。米国ペンシルバニア大学不安障害治療研究センター認定Prolonged Exposure Therapyスーパーバイザー／セラピスト。

**協賛：JASE（日本性教育協会）後援：大阪府立大学女性学研究センター**

**3月13日(日)9:00〜10:30(予定)**

GID 学会／日本性科学会近畿地区研修会共催シンポジウム

## 性腺摘出後のリスク

### 性腺の解剖学と機能をふまえて

**登壇者**

【男性のからだ】
今井　伸（聖隷浜松病院）
【女性のからだ】
菅沼信彦（名古屋学芸大学看護学部教授）

**会　場**

大阪市中央公会堂（大阪市北区中之島 1-1-27）

**参加費・問い合わせ先等**

主　催
日本性科学会／ GID 学会

参加費
医師・看護職・心理士・教師等資格取得者・研究者：10,000 円
一般（上記以外）：3,000 円

問合せ先
大会 HP　https://convention.jtbcom.co.jp/gid23/

**2月20日(日)10:00〜16:30**

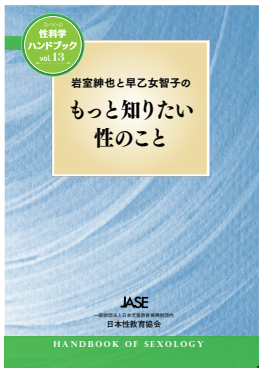
## 岡山SHR研究会オンラインセミナー

**主な内容**

10：00「小学生からの性的同意」
上村茂仁（ウィメンズクリニック・かみむら院長 ）
11：00「LGBTQ/SOGI の基礎知識と最近の話題」
中塚幹也（岡山大学医学部教授）
12：00「月経と女子高校生の学校生活」
（岡山県立大学コミュニティ家族ケア研究会）
13：00「コロナ時代のこころと性」
岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター代表）
14：00「コロナ禍における HIV 感染症診療の現状」
和田秀穂（川崎医科大学教授）
15：00「デジタル社会における性と健康総合討論」
宮崎豊久（インターネットポリシースペシャリスト）
16：00「総合討論」

**問い合わせ等**

参加費 / 無料
申込み /https://www.secure-cloud.jp/sf/1553060286qJizZeER
問合せ先 E-mail　kamishige0315@yahoo.co.jp




性科学ハンドブック Vol.13　**好評発売中！**

## 岩室紳也と早乙女智子の
# もっと知りたい性のこと

岩室紳也・早乙女智子著　◆A 5 判：138 頁　頒価700 円

『現代性教育研究ジャーナル』2014 年 4 月号〜 2017 年 3 月号に連載した「もっと知りたい女子の性／もっと知りたい男子の性」に、加筆・訂正して再構成したものです。

**主な内容**

part 1　多様な性／「性」を科学する難しさ／女は女として生まれない／性別違和／ジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ　ほか
part 2　女性の性／ 膣VAGINAはくぼみである／女子もします！　マスターベーション／人工妊娠中絶と女性の身体権　ほか
part 3　男性の性／「包茎」を科学する／男子はおちんちんで育つ／「男」は環境で育つ性／男性の性機能って何？　ほか

**著者プロフィール**

岩室　紳也／泌尿器科医。ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）代表。AIDS 文化フォーラム in 横浜運営委員。
早乙女智子／産婦人科医。公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員、日本性科学会副理事長。セックスセラピスト。

既刊〈性科学ハンドブック〉
☆性科学ハンドブック Vol.11『思春期の性衝動〜男の子の性を考える〜』A5 判・78 頁 400 円
☆性科学ハンドブック Vol.12『腐女子文化のセクシュアリティ』A5 判・96 頁 500 円

※送料等は、ホームページを参照してください。
◆ JASE ホームページ https：//www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html からお申し込みいただけます。
または、Email　info_jase@faje.or.jp
TEL 03-6801-9307　FAX 03-5800-0478

すぐ授業に使える

# 性教育実践資料集

## 中学校改訂版

〈主な内容〉

第１章　中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）

第２章　性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）

第３章　指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／８つの１年生の指導事例／６つの２年生の指導事例／６つの３年生の指導事例／７つの個別指導事例／５つの組織の指導事例）

第４章　参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

定価 2,200 円（税込）　B5 判・224 ページ

# 「若者の性」白書

## 第8回　青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

**序　章**　第８回「青少年の性行動全国調査」の概要

**第１章**　変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化

**第２章**　青少年の性規範・性意識からみる分極化現象

**第３章**　家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか

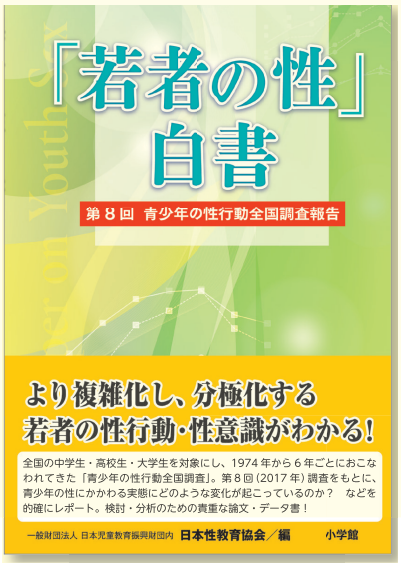
**第４章**　知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題

**第５章**　青少年の性行動と所属集団の性行動規範

**第６章**　青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性

**第７章**　性的被害と親密性からの／への逃避

**第８章**　青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～




定価 2,420 円（税込）Ａ５判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会　　発行／小学館

**全国の書店にて、ご購入いただけます！**